

令和2年度千葉県立若松高等学校 学校目標及び自己評価

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組, 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員アンケート, 保は保護者アンケート, 生は生徒アンケート)	アンケート回答率		自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
					肯定的回答	否定的回答		
学校経営	1 保護者や地域の関係機関と積極的に連携し、社会に開かれた学校づくり、信頼される学校づくりを推進する。 2 業務の見直し及び精選により校務全般を効率よく機能させ、教職員がゆとりを持った教育活動のもと、安全で安心な学校づくりを目指す。	① ホームページをより見やすくするとともに、学校の様子や教育活動の成果等、最新の情報をホームページに掲載する。 ② 定期的な校内巡視、安全点検、修繕により生徒の安全が確保された教育環境を整備する。 ③ タイムレコーダーを活用し、職員の勤務時間に対する意識改革を進めるとともに、業務改善を推進する。	① ホームページの掲載内容と更新状況(月8回以上の更新)の確認	生 2	79.0%	21.0%	1月21日現在で月平均15回を超える更新がなされ目標は達成している。新型コロナウイルス感染症に係る連絡や課題の提示、授業動画等の掲載を含め、学校の様子が伝わるよう、生徒の活動を中心に掲載した。ホームページのレイアウトの改善も進めている。	ホームページの更新回数等については目標を達成しているが、今年度については連絡事項が多く情報過多になりがちであったので、現在進めているページレイアウトの改善を一層進める。
				保 2	86.0%	14.0%		
				職 2	96.6%	3.3%		
							年間3回の定期的な安全点検等により、破損箇所等については、緊急度の高いものから修繕し、安全な状態で教育活動ができる環境を維持した。運動器具等についても早期に対応した。また、定期的に職員が校内巡視を行ったり、新型コロナウイルス感染症感染対策等の取組を行った。	安全の確保という観点から、職員の点検、巡視だけでなく、生徒への安全教育を充実させる必要がある。また、可能であれば防犯カメラ等の設置により一層の安全確保に向けた取り組みが必要がある。感染対策については、健康観察状況データの確実な収集について検討する。
				職 21 私は、業務内容の効率化や超過勤務の削減に努めている。	71.6%	28.3%	タイムカードの導入により、勤務時間に対する自己管理意識は以前よりは高まった。45時間超過勤務職員は、9月から11月までの平均は12.8人であり、0には到達していない。	新型コロナウイルス感染症の影響により超過勤務は減少しているが、昨年同様一部に業務の偏りがあることや、部活動指導の改善が十分できていない部分も見られる。分掌等の人数配分や第3学年担任の進路業務の円滑化を図るなど工夫する必要がある。
学習指導	「分かる授業」により生徒の学力向上を図る。 ② 相互授業参観や授業改善に向けた研修を実施し、生徒の学習意欲を高め、学びが深まるよう授業改善に取り組む。 ③ 学びの基礎診断等を活用して学習課題を明確にし、指導と評価の工夫・改善を実践し、学力向上に向けた取組を推進する。	① 生徒による授業評価アンケートを実施する。 ② 相互授業参観や授業改善のための相互授業参観と研修会の実施状況 ③ 生徒の学習課題の把握及び指導と評価の工夫・改善による学力向上に向けた取組の実践状況	① 生徒による授業評価アンケートの結果(授業満足度80%以上)	生 6	75.5%	24.5%	授業については、各科目の特性に応じて、基礎的な知識を身に付けさせることから発展的内容まで工夫して行った。授業評価アンケートの肯定的回答の総平均値は昨年度と比較し-0.1ポイントとほぼ変わらなかった。感染症対策のために学びの方法に制限が設けられたことで生徒の満足度が高まらなかったと言える。	現在の状況に大きな変化がないことを踏まえ、ペアワークやグループ学習等が難しいことから、ICT機器を活用した学習指導を行う等新たな取り組みが必要である。今までの実践を生かしつつ、より生徒が学習に取り組みやすい指導を行うことが必要である。
				生 7	89.2%	10.8%		
				生 4	70.8%	29.2%		
				生 3	73.1%	26.9%		
				生 9	62.2%	37.8%		
				生 11	77.2%	22.8%		
				生 6	78.0%	22.0%	11月に相互授業参観を職員間で自由に行える期間を設けるとともに、若手職員が積極的に研究授業を行った。しかし、感染対策を施した上での授業の在り方等の研修が組織的にできなかったこともあり、生徒の満足度から、わかりやすい授業や考えを深める授業という点では課題が残る。	相互授業参観や学習指導の研修については、新学習指導要領を踏まえてより一層進めて行く。ICT機器を活用した学習指導や多様な指導方法、観点別学習評価についても研究を継続し、授業の質を向上させることが必要である。
				生 11 1 1	77.2%	22.8%	学びの基礎診断を通して、また、小テストや課題の点検等によって生徒の学習課題を確認し、その状況に応じて授業方法を工夫したり個別の指導を実施したりして、理解させる工夫を行った。	生徒の学力向上に向けて、学習評価の在り方を見直し生徒の学力を観点別に把握できるようにするとともに、学びの基礎診断等を活用し、より一層的確な指導ができるよう改善をする必要がある。
				生 10	84.0%	16.0%	朝の登校指導は、授業日全てにおいて実施している。生徒の挨拶指導や声かけ、身なり等の指導などきめ細かに行うことができた。服装頭髪指導も年3回組織的に行うとともに、日常的に指導を行い、目的は概ね達成した。	朝の登校指導は、基本的な生活習慣の確立に向けて効果が高く、今後も継続する。また、生徒指導の規定を見直しつつ、より安全で円滑な学校生活が送れるよう組織的に指導を継続して行く。
			保 10	89.1%	10.9%			
			生 9	87.2%	12.8%			
			保 9	88.8%	11.2%			
	きめ細かな生徒指導を通して生徒の基本的な生活習慣を確立させるとともに、特別活動や部活動を充実させ、豊かな情操、道徳心、健康やかな体を育む。	① 登校指導を通して、基本的な生活習慣・マナー・身だしなみ等の指導に学校全体で取り組む。	① 生活指導の啓発回数と指導状況及び学校評価アンケートの結果(肯定率85%以上)	生 10	84.0%	16.0%	朝の登校指導は、授業日全てにおいて実施している。生徒の挨拶指導や声かけ、身なり等の指導などきめ細かに行うことができた。服装頭髪指導も年3回組織的に行うとともに、日常的に指導を行い、目的は概ね達成した。	朝の登校指導は、基本的な生活習慣の確立に向けて効果が高く、今後も継続する。また、生徒指導の規定を見直しつつ、より安全で円滑な学校生活が送れるよう組織的に指導を継続して行く。
			保 10	89.1%	10.9%			
			生 9	87.2%	12.8%			
			保 9	88.8%	11.2%			

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員アンケート、保は保護者アンケート、生は生徒アンケート)		アンケート回答率		自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)		
				肯定的 回答	否定的 回答	肯定的 回答	否定的 回答				
生徒指導		② 個人面談やアンケート調査等により生徒理解に努めるとともに、職員間で情報共有を図る。	② 個人面談から得た情報及びアンケートの結果の共有状況と対応状況	生 8	教職員は、生徒の相談に丁寧に応じている。	82.4%	17.6%	生徒対象のアンケートや個別面談等を複数回行い、課題がある場合は、当該委員会で当該生徒と面談等により状況を捉え、個々の事例について他の職員やスクールカウンセラーと連携し対応を進め、多くの場合は早期解決を果たすことができた。	生徒の相談内容が多様化するとともに、学校のみで解決することが難しいこともあることから、スクールカウンセラーや関係機関等と連携し、相談解決に向けた丁寧な対応ができるようにする。		
				保 8		87.3%	12.7%				
		③ 教育相談や人権の研修を実施するとともに、生徒に関する情報を職員間で共有し、「いじめ」の早期発見に努める。	③ 早期段階におけるいじめの把握と組織的な対応の状況	生 7	学校は、いじめや差別の防止に取り組んでいる。	74.0%	26.0%	SOS教育に関係づけて指導を行うとともに、人権啓発授業を実施した。生徒からいじめの疑いについて相談があり、関係委員会で調査して早期に対応した。	人間関係を上手に構築することが苦手な生徒等を早期に発見し、組織的に支援しつつ、引き続き生徒のいじめを許さない意識を高める指導を行うとともに、問題を早期発見、早期解決できるよう組織を充実させる。		
				保 7		89.5%	10.5%				
		キャリア教育	生徒や保護者が目指す進路選択の実現及びキャリア発達の充実を図る。	① 外部機関と連携し、体系的な進路ガイダンスを充実させる。	① 進路説明会・教員研修会の実施回数と状況及び保護者への情報提供回数	生 12	学校は、自立した社会人を目指した計画的な進路指導を行っている。	85.3%	14.7%	進路説明会を1年1回、2年2回、3年3回実施した。感染予防対策のため、外部講師の招聘や学年単位での実施ができなかったため、当初予定よりも実施回数が減少したが、代替として進路のホームルーム等を実施した。アンケートによると生徒の85.3%が満足しており、概ね十分な対応ができたものと評価している。また、保護者には、面談を通して情報提供を行った。職員研修も実施できず、各学年で情報共有を行うことで代替した。	進路説明会は、生徒の必要とする情報が的確に伝わるよう実施方法等を含めて見直す。職員研修については、今年度の大学入試の状況やコロナ禍の状況を踏まえて的確な情報が職員全体で共有できるよう内容を検討する必要がある。また、感染対策の観点から、保護者対象の説明会については、実施方法等を検討する必要がある。
						保 12		84.4%	15.6%		
② 個別面談や保護者面談等を通して個別の進路指導の充実を図る。	② 面談の回数と実施状況			生 13	学校は、希望進路に応じたきめ細やかな進路指導を行っている	84.1%	15.9%	面談週間において生徒及び保護者全員対象に面接を実施し進路に係る指導を行うとともに、クラス単位や進路指導部において面接を実施し、個々の進路希望に応じた支援を行った。	今年度については、感染対策で制約の多い中、多様化した進路希望に対応することができたので、このことを踏まえてより一層個々に応じたきめ細やかな進路指導ができるよう組織的に対応する。		
				保 13		80.6%	19.4%				
③ インターンシップやボランティアなどの体験学習を実施する。	③ 職業体験、ボランティア活動の実施回数、参加人数、活動状況			生 14	学校は、体験学習、職業体験などの機会・情報を提供している	78.8%	21.2%	新型コロナウイルス感染症感染対策から、職業体験及びボランティア活動が中止となった。千葉東警察のボランティアに9名参加したこととまとまった。	今年度の状況が続くようであれば、体験学習の方法をネットを通じたものも含めて検討し直す必要がある。		
				保 14		73.0%	27.0%				
特色ある活動	変容する社会に対応する力を育成する。	① 留学プログラムや関係機関を通してグローバル社会に触れる機会を設ける。	① 留学や関係機関を通して取組の内容と参加人数	/				短期留学及び長期留学の実施は中止となった。昨年度からニュージーランドに留学していた3名は、留学を終えて無事帰国し、1月に報告会を行った。	短期留学や長期留学が難しいことから、リモートでの国際交流等の在り方を探る必要がある。		
				② ボランティア等を通して多様な人々に関わる機会を設ける。	② 生徒のボランティア活動の状況	/				予定していた桜が丘特別支援学校における行事のボランティア、若竹保育園でのボランティアは中止となり、千葉東警察のボランティアのみ実施し地域の方との交流を行った。また、電話で詐欺防止の四コマ漫画を20名が作成し、1名の作品が採用された。	今年度の状況が続くようであれば、多様な人々との交流については、対面でのやりとりからリモートでの交流や、物を通してのやりとり等、実施方法を工夫する必要がある。今後どのようなことが可能か検討する。
						③ 自己の考えを校外で発表する機会を設ける。	③ 校外でのプレゼンテーションの大会等の参加回数	/			